

第1号議案

令和3年度全技連マイスター会事業計画(案)

1. 基本方針

昨年度は、国際的にも国内的にも新型コロナウイルス感染症に翻弄され、ほかの一切の事柄が忘れ去られた感がありました。今年度に入っても、感染者数の下げ止まり傾向が続き、より感染力が強いといわれている変異株の増加も見られるなど、予断を許さない状況が続いています。

しかし、ワクチン接種の目途も立ちつつあり、漸く曙光が見えてきました。1年延期になったオリンピック・パラリンピックも予定通り円滑に実施されることを願います。

そして、私たちものづくりの世界に携わる者としては、これにも劣らず、今年12月東京・ビッグサイトで予定されている「Tokyo 技能五輪・アビリンピック 2020」が選手を含め多くの方々の参加を得て、成功裏に閉会されることを期待しています。さらに、その間に同じ東京ビッグサイトで行われる「ものづくり・匠の技の祭典 2021」も昨年のリモート方式の経験も活かし、多くの道府県からの参加・多くの観覧者が集まり、成功裏に実施できることを期待します。

全技連マイスター会の活動も、ブロック会・支部も併せ、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。本部関連では、初めて書面総会を行い、理事会についてもすべての会議を書面により実施しました。ブロック会や各支部等の集合型のイベントも中止を余儀なくされた所も多くみられました。

全技連マイスター会活動の基本は、各地域の特色ある独自活動であり、とりわけ各地域の人々との触れ合いの中でのものづくりの魅力を伝えることにあります。

この意味から、昨年度、地域の人々と直接触れ合う活動が十分できなかったことは残念であるとともに、人々の全技連マイスター会や技能士についての認識が薄らぐことを恐れるものです。

今年度は、昨年度行えなかった活動も含め、多くの人々と直接触れ合うことのできる活動の再出発の年にしようではありませんか。

このため、今年度のマイスター会は、昨年度十分行えなかった活動も含め、以下の2点を基本方針とします。

(1) ものづくりを目指す組織との連携の強化

全技連マイスター会の組織目標の根本は、ものづくり社会の定着ともものづくりに携わる技能士の社会的地位の向上にある。この目標を実現するため、今後も、各自治体等の関係団体との連携協力を深めていく。

とりわけ、関係団体のうち、全国・各地域ともに職業能力開発協会・技能士会連合会とは、技能力・職業能力向上やものづくり後継者育成を中心として、相互に支援・事業

協力を行い、ものづくり社会の定着に向け、連携を深めてきた。この関係をさらに進めるため、昨年度は全技連マイスター会通常総会での承認を得て、中央職業能力開発協会及び全国技能士会連合会の会員となった。

今年度は、これを契機に、更に両団体との連携を強化する。

(2) 全技連マイスター会組織の活動力の強化

平成 18 年（2006 年）7 月発足以来 15 年、全技連マイスター会はその社会的使命である、ものづくり社会の定着と技能士等の社会的地位の向上を目指し活動してきた。これからの 15 年、全技連マイスター会組織がさらに充実し、若手技能士・後継者の育成をはじめとして、与えられた使命を十分に果たすため、本部と各ブロック会・支部の更なる連携の強化、ブロック会・支部活動力の一層の充実を図ることが望まれる。

今後、以上の観点を踏まえ、更なる組織活動力の強化に向けた措置を行う。

2. 個別方針

上記基本方針の具体化のため、次の諸点を具体方針として定めます。

(1) 「ものづくりを目指す組織との連携の強化」へ向けて

① 中央職業能力開発協会・全国技能士会連合会会員としての責務

当会の社会的認知力・信頼度を高め、活動力を強化するため、全技連マイスター会は、中央職業能力開発協会・全国技能士会連合会の会員として、全技連マイスター会及び全技連マイスター会員である各技能士の利益向上のため、与えられた責務をはたす。

② 両団体への事業協力をより深める方策

全技連マイスター会及び両団体との実質的な連携・協力体制を深めるため、これまでも技能士大会等、全技連マイスター認定講習等の各種事業につき協力を行ってきた。

とりわけ、全国技能士会連合会と中央職業能力開発協会が共催実施している技能士大会については、当該年度全技連マイスター認定者を全国に知らしめ、全技連マイスター講習の実質的な「修了式」であり、全技連マイスター会会員としての「入学式」の性格を持つといっても過言ではない。

このため、全技連マイスター認定講習の成否が会の運営に深くかかわる全技連マイスター会も応分の責任を負担するため、技能士大会への賛助を行うこととする。

③ 「Tokyo 技能五輪・アビリンピック 2021」等のへ協力

オリンピック・パラリンピック成功は、日本・世界の望むところである。

これに加え、私たちものづくりに携わる者は、更に 2021 年 12 月に実施予定の「Tokyo 技能五輪・アビリンピック 2021」やそれに合わせて開催される「ものづくり・匠の技の祭典 2021」・「障害者ワークフェア」の成功を強く望んでいる。

国・地方公共団体・職業能力開発協会・技能士会連合会は、これらの大会の円滑な運営・成功に向け、最大限の努力をされるものと思われるが、全技連マイスター会も、

その成功に向け、できる限りの協力を行う。

(2)「全技連マイスター会組織の活動力の強化」へ向けて

① 事業費助成制度の拡充

事業費助成制度については、平成27年7月に「全技連マイスター会事業費助成基準」を制定し、各支部等への事業費助成の透明化・公平化を図った。以来、大半のブロック会・都道府県支部がこの制度を活用しており、これらの組織の活動力を支える重要な制度となっている。

一昨年度のブロック会総会・支部設立総会に要する経費の2倍増に引き続き、昨年度は各支部等助成額の基準単価の増を行った。しかし、既述のとおり、昨年度は活動中止のブロック会・支部が多く、事業費助成制度のレベルアップ効果が少なかった。

今年度については、各ブロック会・各支部が事業費助成制度を有効に活用し、各地域の人々と結びついた全技連マイスター会活動の推進に向け、力を注ぐ。

② 本部役員と各ブロック会・各支部との交流促進費の確保

全技連マイスター会役員と各ブロック会・各支部や関係団体との交流は、マイスター会活動の強化・活性化のうえで、必要・不可欠のものである。

このため、一昨年度以降、全技連マイスター会会長が率先して、より多くの支部・関係団体と交流し、その情報をもとに関係方面への交渉等に臨めるよう、交流促進のための予算を確保してきた。

昨年度は、残念ながらコロナ禍の影響で交流の機会が限られていたが、今年度は各地域との交流を積極的に行いたい。このため、昨年を引き続き、会長等と各支部等との交流促進のための予算枠を確保し、本部と各ブロック会・各支部、関係団体との交流促進に向け、努力する。

③ 全技連マイスター会ホームページの拡充

全技連マイスター会ホームページの閲覧者は、毎年増加している。特に、「会員紹介」「地域活動」「組織概要」などの各記事が多く閲覧されている。

これらのコーナーには、全技連マイスター会会員や県技連等の関係者以外の皆さんのアクセスも多くあり、徐々にではあるが、全技連マイスター会ホームページへの一般の方々の関心が高まりつつあると思われる。

これに比べ、全技連マイスター会会員・関係者の閲覧実績が極めて少ないのではないかと危惧している。また、支部会長などからの新しい情報提供がほとんど無く、事務局からの再三の記事提供要請によりやく反応ある現状でもある。

全技連マイスター会ホームページは、各地域のきめ細かい記事を掲載することに力を入れているが、そのためには各地域からの情報提供がなければ、適時・適切な記事を掲載することはできない。

今後、マイスター会事務局・各都道府県支部・各会員が連携し、全技連マイスター会ホームページの充実に向け、努力する。

④ 全技連マイスター会功労章制度の遺漏なき実施

昨年度は、これまでの功労章制度に加え、地域活動・単一団体活動に尽力されている各都道府県支部等役付き理事である全技連マイスター会会員を対象とした「銅色功労章」制度を設けた。「銅色功労章」は支部等役付き理事のほか、長年全技連マイスター会各支部等において、裏方として支部等の活動の発展に尽力されている事務局職員をも対象としている点で特色があり、支部活動等のモラルアップにも貢献するものとする。

令和3年5月度においては、既に支部役付き理事等を退任した諸先輩も含め、対象者が多数に上った。しかし、制度内容が十分理解されていないため、受けられるべき方々の受章が漏れているとしたら問題である。

今後、この制度をより効果的に運用し、支部運営を支える人々の苦勞に報いるよう、本部・支部等の情報交換を一層密にし、全技連マイスター会功労章制度の遺漏なき実施に努めていく。